

0 0
1 1
2 2
3 3
4 4
5 5
6 6
7 7
8 8
9 9

10 A
11 B
12 C
13 D
14 E
15 F
16 G
17 H
18 I
19 J
20 K
21 L
22 M
23 N
24 O
25 P
26 Q
27 R
28 S
29 T
30 U
31 V
32 W
33 X
34 Y
35 Z
36
37 \$
38 %
39 *
40 +
41 -
42 .
43 ,
44 /
45 :

QRコードの基本ルール

- ・ 21マス×21マスで作れる
- ・ 黒いところは、お決まりのパターンになっている
- ・ 青いところは、設定データが入っている
- ・ 黄色いところは、QRコードの中身が入っている

QRコードの作り方

- ・ 黒いところを書く。
- ・ 中身のデータを定める。
- ・ 中身のデータを黄色いところに入れる。

黄色いところの白黒の決め方

①中身のデータを定める。

SHINOBU

②中身のデータを、2文字ずつに分解する

SH IN OB U(x)

③ルールに従って、数字を計算する。

SH 一文字目： S は 28 番 → 1277
二文字目： H は 17 番

IN 一文字目： I は 18 番 → 833
二文字目： N は 23 番

OB 一文字目： O は 24 番 → 1091
二文字目： B は 11 番

U 一文字目： U は 30 番 → 1350
二文字目： なし

☆計算ルール☆

一文字目の番号×45を計算して、二文字目の番号を足す。

④数字を、10進数から2進数に変換する。

10進数… 10になったら次の桁に上がるルールで作られた数のこと

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

2進数… 2になったら次の桁に上がるルールで作られた数のこと。

(10進数の場合→)

0	1	2	3	...
0	1	10	11	...

ここで桁が上がる↑

変換は難しいので、パソコンで変換しました。

SH	1277	→	100_1111_1101
IN	833	→	011_0100_0001
OB	1091	→	100_0100_0011
U	1350	→	101_0100_0110

⑤0は白、1は黒、として、黄色いところを埋めていく。

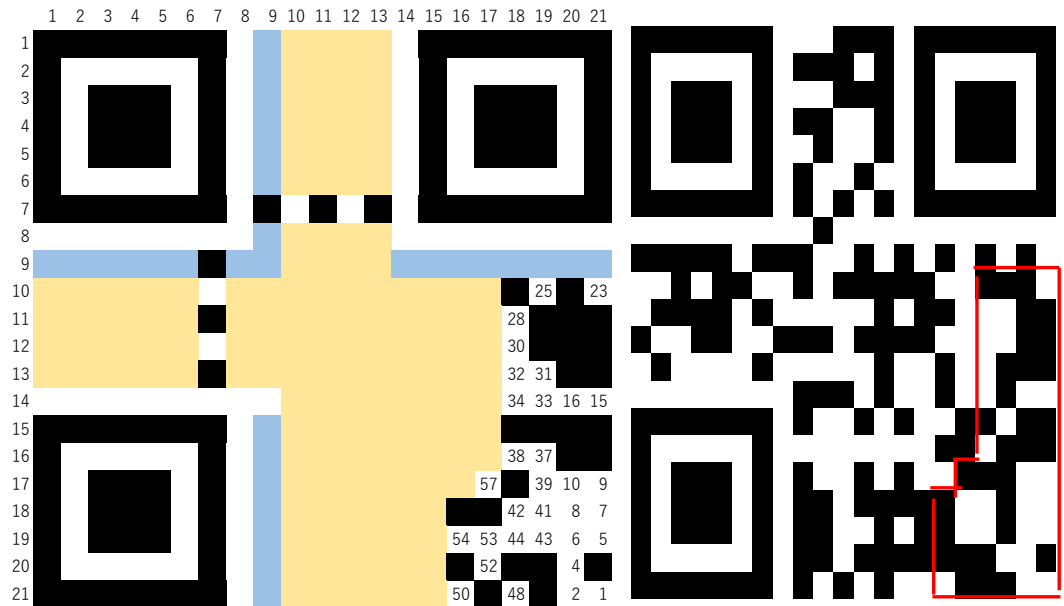
ただし、先頭に文字種と文字数を示す以下の2進数を追加する。

文字種類=英数字モードなので、0010 (4桁)
文字数=7文字なので、0_0000_0111 (9桁)

以上を並べると、

文字種：	1	2	3	4							
	0	0	1	0							
文字数：	5	6	7	8	9	10	11	12	13		
	0	0	0	0	0	0	1	1	1		
SH：	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1
IN：	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1
OB：	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
U：	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57
	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0

これらの0と1から白黒を塗ると、以下のようになる。



これで完成！と思ったが、読み込めなかった。

QRコード作成ソフトで「SHINOBU」のQRコードを作成して見比べると、少し違う。